

山口新聞

平成26年9月26日(金)

NO.122

兔渡谷地域資源保全会(長門市) 自らの手で農地を守る



会員の皆さん



花壇の手入れ



水路の自力施工

農地・水・環境
守ろう地域の手に

122

当会は長門市東部の三隅地区に位置し、兔渡谷集落の範囲19軒を活動対象としている。近隣地区と同様に農家の高齢化、後継者不足が進んでいる集落だが、自昭和50年代には場整備が完了しているため、農業用

施設全般に経年劣化が進んでいたが、主体となって課題解決を行う組織がなかった。そのような中、「自分らのやれることから、やってみたい」と集落の機運の盛り上がり契機に、ハード面では重機などをリースしながら、自力施工による農道・水路の補修、

排水路の泥上げ、農道のり面シート貼りなど長年の課題解決に取り組んだ。ソフト面では当会が中心になり集落点検、清掃活動、花壇設置などを行った。

「限界集落」という言葉が様々な場面で使われ、現在は「消滅する自治体」まで発表されている。昔のような行政の支援が期待できないのなら、「自分たちの農地は自ら守る」ことを、「今」だからこそ痛切に感じている。

(書記会計、伊藤和久)
—金曜日掲載—

【メモ】代表 谷村幸雄▽会員 28人、農家(17戸)、兔渡谷農事組合、兔渡谷自治会、兔渡谷子供会▽設立 2007年4月14日▽連絡先 長門市三隅上3517、伊藤和久さん ☎0837・43・0510